

只狩山

スコリアの源

福江島の最も南の半島の真ん中にある穏やかな隆起、只狩山は、ほぼ全体がスコリアという非常に軽く多孔質の玄武岩でできています。この石の穴は、噴火時にマグマ内にガスが閉じ込められ、それが冷えて固まり岩になることで形成されます。

軽量ながら、スコリアは丈夫で耐久性に優れているので、この地域では石壁の建設に広く利用されており、特にこの島特有の円形の農地を囲む石の壁に使われています。また、スコリアは建物の壁に使われたり、浸食を防ぐために排水溝に沿って設置されたりするほか、この地域特有の屋根と扉以外は全てスコリアでできている納屋の建材として利用されています。

スコリアは多孔質であるものの、土壌に水分を保つのは得意ではありません。そのため、只狩山周辺の石壁で囲われた畑ではコメの代わりにサツマイモが最も一般的な農作物となっています。